

平戸の聖地と集落

平戸のキリスト教

1550年、長崎県平戸市平戸港に、
日本で最初のポルトガル船が入港しました。

ポルトガル人たちは、西洋の文化をもたらしました。

オランダ商館が建つ町並みは
交易のロマンを感じさせます。

西洋との交易が盛んに行われました。
平戸にもたらされたものは品物だけではありませんでした。

キリスト教も伝来したのです。

宣教師フランシスコ・ザビエルは、布教活動を行うため平戸を訪れました。

これが貿易の助けになると考えた25代平戸藩主松浦隆信は、
イエズス会宣教師の布教活動を認めました。

また、松浦隆信は家臣の籠手田安経と
その弟一部勘解由がキリスト教に改宗することを認めました。

敬虔なキリシタンとして、二人は領地に住む人々に対して
キリスト教に改宗するよう説得しました。

平戸は日本における最初に
キリスト教が繁栄した場所になりました。

しかし、その繁栄は長くは続きませんでした。

1587年、天下統一を果たした豊臣秀吉は、
キリスト教の神父を国外に追放する法令を出しました。

平戸藩主松浦隆信は
キリスト教に寛容でした。

しかし、1599年の松浦隆信の死後、
次第に平戸のキリスト教弾圧が本格化しました。

平戸のみならず、長崎全域、さらに日本中で
キリシタンが次々と処刑されていきました。

潜伏キリシタンと呼ばれる人々は、表面上は仏教や神道を受け入れつつ、
密かにキリスト教の信仰を守り続けました。

こちらは潜伏キリシタン信仰の様子を再現したものです。
座敷に神棚、茶の間に仏壇を置いていましたが、...

... 小さな部屋の納戸には人目につかないよう
キリシタンの信仰具を飾りました。

これらは、キリスト教の聖画をもとに描かれた掛け軸と
鞭を起源とする祓い清めるための道具です

これらの瓶には聖水が入っています。

潜伏キリシタンは、このような品々を信仰の対象として祀り、
「オラシヨ」というキリシタンの祈りの言葉を唱えました。

約250年にわたって、宣教師不在の中、
信仰は親から子へと脈々と密やかに継承されました。

幕末に日本が開国すると、
外国人神父がカトリックの布教を再開しました。

1873 年、キリシタン禁制の高札はついに撤廃されました。

多くの潜伏キリシタンがカトリックに合流しました。
宗教活動は再開され、教会堂が建てられました。

キリシタンのなかにはカトリックに復帰しなかった人々もいました。
彼らは禁教当時の信仰形態を継続していきました。

このような人々とその信仰は「かくれキリシタン」と呼ばれます。
かくれキリシタンは教会をもたず、仏教・神道も信仰します。

平戸のキリスト教とかくれキリシタンの歴史について
世の中の人々に知ってもらうのは重要です。

キリシタンは宣教師が不在の 250 年間、
信仰を絶やさず、守り、継承してきました。

キリシタンの歴史は、
大変貴重かつ稀な比類なき物語です。

後継者不足や社会構造の変化などにより
「かくれキリシタン」の伝統は縮小しています。

私たちには平戸のキリシタンの劇的な歴史から学べるがあります。

禁教当時の信仰形態を残すかくれキリシタンの文化と
キリスト教復興後のカトリック信者が建てた教会

これらは全て、信仰と宗教の重要性を指し示しています。

こうした先祖が守り伝えてきた歴史や文化を、
今度は私たちが次世代へ伝承していく必要があります。